

おお大勝利

平成 31 年度／令和元年度 山東サッカー一部報第 13 号 (10 月 17 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権 2 回戦で山商に敗れる

10 月 12 日 (土) いよいよ選手権が開幕。選手権はこれまで 10 月第 1 週から始め、最終週の土曜日に決勝戦をしておりましたが、今年は主催者の一人であります YBC さんがラグビーワールドカップの放映の関係から例年よりも 1 週遅い決勝戦 (11 月 2 日) を打診してきたため、開幕も 1 週遅らせ、スタート。山東は 1 回戦を上山明新館と戦う。

この日、前から過去最大級クラスの台風の来襲が予想されておりました。本県は直接通過しなさそうだし、予報を見ても何とか開催できそうではないか、少なくとも現場 (会場) の判断で時間をずらせば、日中ずっと試合できないなんてことはないのではないかと (県高体連専門委員長を務める私は) 考えておりました。が、各方面から、もしもの時の懸念の声が届くとともに、前もって日程をずらせば現場の混乱がないなどのご指摘があり、結局県協会や高体連の上のレベルの決定に基づき、12 日の日程を 1 時間早めて開催し、13 日を順延とし、14 日に 13 日の予定をそのまま実施することとしました。**各校、特に会場校や県審判委員会のご尽力があり、何とか開催できました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。** 13 日の山形は台風が福島宮城を通過中とは思えないほど晴れており、「当初の予定通り開催できたんじゃないか」と思った方もいらっしゃるようですが、JR も止まっており、会場もしっかり整備して 2 回戦を迎えることができたので、早めの判断は間違っていないと思っています。

さて、12 日 (土) 1 回戦上山明新館との試合を同校 G にて行う。11 日～12 日夜中に雨が降ったものの、**上山明新館高校サッカー部や女子ソフトボール部の方々の懸命のグラウンド整備により、当日は素晴らしいピッチコンディション。** 午前は雨風もなく、非常に良い環境。**3 年オサ**にとっても集大成の大会であり、当然期するものがあるだろう。試合は山東が押し気味に進めるものの、しっかりゴール前を固める明新館相手に攻めあぐむ。ボールは転がるものの、重たい部類のクレーピッチであり、ダイレクトな攻撃 (縦の速い攻撃) をしっかりシュートまでつなげる力が求められるが、ちぐはぐな選択が目立つ。そんな中、前半の終盤、CK から待ってました、ヘディングの得点！ **われらが山東山脈の一連峰、コーダイヶ岳 (2 年主将コーダイ) が 2 年ミノル**の山なりの CK をファーで合わせ、ゴールネットを揺らし、山東待望の先制！ そして、1-0 でハーフタイム。1 点取ったことで気分的に楽になった山東、後半は気持ちよく攻め、**2 年気合のグラウンドマネージャーユッキーことユキタカ**がドリブルから、そしてヘディングで 2 得点。特に 3 点目 (彼の 2 点目) のヘディングはちょっとかすらせて軌道を変えた技ありシュートでした。4 点目は、進学校大会で傷を負った **2 年羽入の星ウエマツ**が右からのクロスに飛び込んで GK の前にてインサイドで合わせたこれまたファインシュート。ウエマツがあんなに喜んだシーンは初めて見ました。ウエマツ、ナイスシュート！ さあ 4-0 で快勝かと思われた試合終盤、裏への長いボールの対応をディフェンスが誤り、失点。さすが山東、相手に花を持たせることも忘れない (もちろん自虐表現です)。公式戦で出番の少ない **2 年高橋イスム (高橋コーチイスム) の継承者モリヤ**や **2 年クニワケ親方ことコクブン**も出場し、多くの者が経験を積むことができたこともこの試合の

収穫。結局 4-1 で山東の勝利。

1 日空いて 14 日 (月) 2 回戦山形商業戦。会場は同じく上山明新館 G。午前は雨も気にならないくらいの、あったとしても小雨。気温も含めコンディションは悪くない。**相手の山形商業は、11 人先発全員が山形 FC (通称山 F) 出身。**山商は以前から山 F 出身者が多く、今年も多いのは知っていたが、全員とはね。**同じく山 F 出身の 3 年オサ**は気合が入っているだろうこと、予想に難くない。山東は進学校大会から試した 4-1-4-1 のシステムがこれまで非常に上手くはまっている。ずっと 3-4-3 をしてきたことが、4 バックになっても生きている。CB で出場続けてきた **2 年ユースケ**のアンカー起用によりディフェンスでも中央に枚数が割かれるし、攻撃では 3-4-3 のシステムにスムーズに変更できる。ディフェンスでは、前からアプローチしてショートカウンターを狙うもよし、引いて 5 バック気味に粘るもよし。

試合前、進学校大会で負傷し、出場も限定的と思われた **2 年オフザピッチだけフラジル人ヒラマサ**が「最初から行けます」なんて気合十分。おいおい、ヒラマサ君、そう言って動けなかったらチームに迷惑かかるんだよ、焦らず考えたら、なんて諭すと、「昨日のラグビー (日本対スコットランド戦) 観て、こんなの怪我のうちに入らないと思いました」などと、のたまう。確かに不運な面も部分的にあるが、故障ということでトレーニングを抜けてばかりの彼、「やっとなんか気付いたか」と感じさせられた。とともに、思わぬラグビー効果も感じた。とまあ、こんな風に表現したが、ヒラマサ流に「オサさんの最後に試合にはさせない」という気持ちの表れだったのだろうと思う。「よし、じゃあお前に賭ける」とヒラマサ 1 トップで先発。GK は、**土曜日先発した 2 年 Mr しっかり者カザマ**ではなく、**1 年二刀流コーセー**。試合には**多くの 1・2 年保護者**とともに、**3 年生有志と 3 年生保護者**が応援に駆けつけてくれた。もちろん、**いつものお三方清野総監督 (後援会名誉会長)・工藤先輩・後藤報道局長**はいつも通りいらっしゃる。**岸後援会会長 (県サッカー協会副会長)**もいらっしゃった。さあ、あとはピッチ内で頑張るだけ。

試合が始まると、やはり山商ペース。山商、端的にスキルがあるだけでなく、山東より判断が速い。やはり山東の選手は、スキルがないから、と分析しておきましょう、「**ボールコントロールがうまく行くかわからないから**」**うまく行ったのを見届けてから次の決断を下す癖がついており、フレーが遅い**。山商の選手は山東のディフェンスに対して先手先手にプレーし、山東のプレスがはがされる。今期 Y2B で優勝し来年 Y1 で戦うチームだけあるし、やっとなんか Y2 残留したチームとは違う。そんな中、インサイド (中央) をワンツールの連続で侵入され、挙句に素晴らしいファインシュートを放たれ **0-1**。前半山東はほぼ何もできなかった。**後半に入ると、俄然山東の攻撃の時間が訪れる**。開始早々のオサの左足のシュートに始まり、明らかに山商が受けに回っている。山東の破れかぶれのパワフルな攻撃に山商のスマートな選手たちが混乱している印象。しかし、ゴール前の精度を欠き、ネットを揺らせないでいると・・・後半中盤、山商の鋭いカウンターから放たれたシュート、いったんコーセー弾いたものの、逆サイドからしっかり詰められ **0-2**。コーダイを前線に上げて勝負に出るも、逆に精度の高いカウンター発動され **0-3**。試合最終盤、ヒラマサが右サイドをえぐりオサにラストパス。オサのボレー！ で時間は止まりましたが、浮いたボールをゴール枠に収められず。無情にもボレーシュートは外れ、ほどなくしてタイムアップ。

スキルでは劣る山東の選手の熱い魂は感じることでできた試合で、得点差ほど山商が楽に勝った試合ではなかったと思いたいですが、足や頭でのクリアにてボールに当てるので精一杯のレベル (だから当たらないでおかしな方向にボールが行くことの多いレベル) の山東と、これまでの基礎練習量が違い一つ一つがしっかりパスになる山商の選手とでは、やはり大きな違いがありました。ともかく、**これが最後の試合になったオサ、今までお疲れ様。君の飽くなき向上心は後輩たちの心に間違いなく刻まれたよ。皆様、応援ありがとうございました**。あとは今期、準公式戦の 1 年生大会を残すのみになりました。